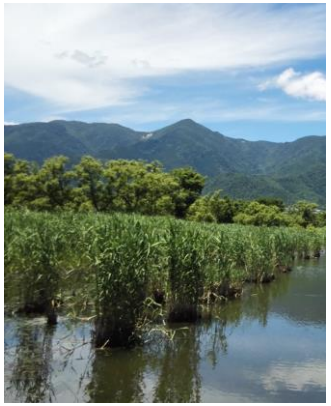
ヨシってどんな植物？　～人と自然が共生するってどんなこと？～

皆さんは「ヨシ」という植物を知っていますか？

琵琶湖のまわりには「ヨシ」「ツルヨシ」「セイタカヨシ」という3種類のヨシの仲間が生えています。



ヨシ

水辺にまとまって生えて「ヨシ原」を作る

ツルヨシ

川の中流や上流の河原に生えていることが多い

セイタカヨシ

背が高い
冬でも緑色をしている

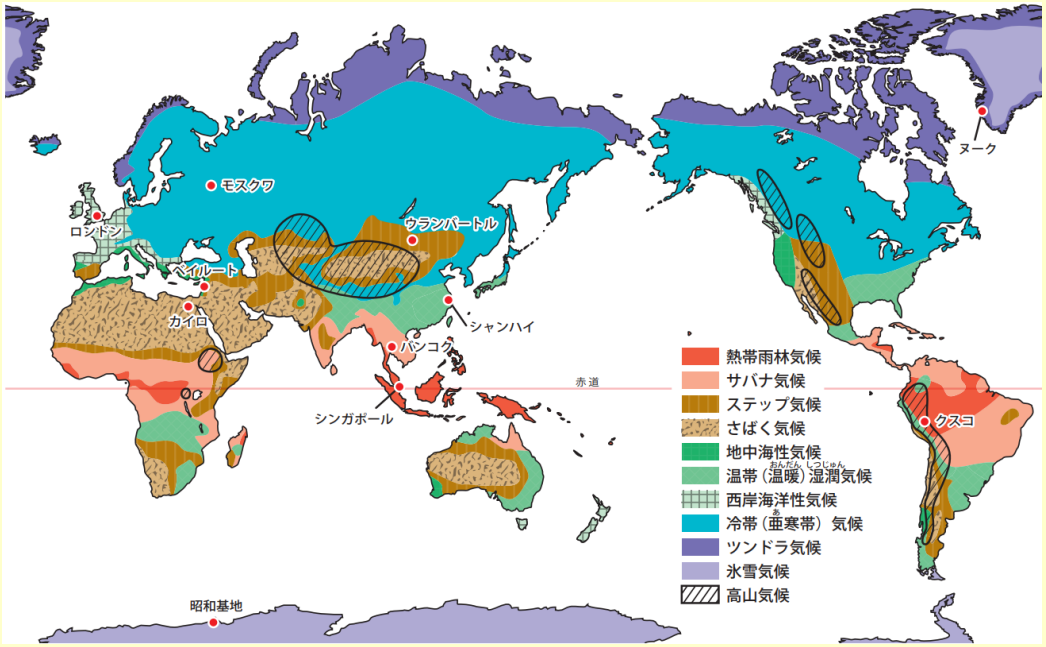
ヨシがまとまって生えている場所を「ヨシ原」や「ヨシ群落」と呼びます。滋賀県では平成４年に**「琵琶湖のヨシ群落保全に関する条例」（通称「ヨシ条例」）**が策定され、ヨシ原を守るための様々な取り組みが進められています。この条例は「人と自然の共生」を実現し、生きものや環境のつながりを積極的に守っていくことを定めた全国で初めての条例といわれています。

ではなぜ、ヨシを守らなければならないのでしょうか。

ヨシはどんな植物なのか、どんな役割を果たしているのかを見ていきましょう。

ヨシについて①　ヨシってどんな植物？

ヨシは、どんなところに生えているの？



釧路湿原（北海道）

227km²におよぶ湿原の一面に
ヨシが生えています。

「ヨシ」はどこに生えているのでしょう。条例を作って守るくらいなので、琵琶湖にしか生えていない貴重な植物なのでしょうか？実はヨシは**世界の温帯、亜寒帯にかけて（大体、地図の青や緑でぬられたところあたり）の水辺に広く生えていて、日本では北海道から沖縄までどこでも見られる植物です。**

涼しいところを好むので、日本で一番広いヨシ原は北海道にあります。

ヨシについて①　ヨシってどんな植物？

ヨシの1年

春　とがった芽がたくさん生えてくる

夏　青々と葉をしげらせヨシ原がひろがる

秋　穂（ほ）が出て、全体が茶色くなってくる

冬　枯（かれ）て乾燥（かんそう）し、硬くなる

ヨシは１年で３～４ｍ、大きなものは５ｍ以上に育ちます。

冬になると様々な場所でヨシ刈りが行われ、そのあとに「火入れ」が行われることもあります。ヨシ刈りや火入れが行われたあとには、春になるとまたヨシが芽吹き、ヨシ原が広がります。でもなぜ、ヨシはまた生えてくることができるのでしょうか。

ヨシについて①　ヨシってどんな植物？

実は、ヨシは根（地下茎）がつながっています。

冬になって地上部が枯れても根が生きているので、

春になるとまた、芽を出すことができるのです。

ではヨシ原には、どんな役割があるのかについて

見ていきましょう。

タケノコと
同じだね！

「ヨシ原」は日本の原風景

「古事記」は現存している日本最古の書物で、712年に太安万侶という人が

まとめたといわれ、日本の国の成り立ちや歴史が、神話の時代や伝説なども

含めて書かれています。古事記のなかで日本は「豊葦原之千秋長五百秋之

水穂国（とよあしはらのちあきながいおあきのみずほのくに）」と呼ばれて

います。これは「豊かにヨシがしげり、稲が豊かに実る美しい国」という

意味です。水辺に広がる豊かなヨシ原は、昔から「日本らしい自然」の

シンボルとしてとらえられていたことがうかがえます。